

## “慣れは、隙を生む・・・”

先日、プロ野球、オリックスバファローズの監督、中嶋さんが、今季限りで辞任することになりました。その辞任の理由が「どれだけ言っても改善されなかった」でした。中嶋監督は、最下位だったチームを立て直し、リーグ3連覇、22年には日本一にも輝きました。しかし、今シーズンは、エース級がメジャーリーグや他球団に移籍したことが影響してか、リーグ5位という結果でした。中嶋さんは「今まで通りにやっても、人って慣れるじゃないですか。なれという部分が今年は強く出てしまった。初めに言っていたのは、全力疾走であり、攻守交代であり、そこはしっかりやってくれと。最下位からのスタートだったので、その最下位のチームができないのはおかしい。勝ったチームは、やらんでもいいのか。どれだけ言っても改善されなかった」と最後にチームに対しての言葉を残しました。

最下位という苦しい状況から這い上がろうとすると、みんな必死にやろうとします。オリックスというチームもそうだったようです。その時に監督だった中嶋さんが、“全力疾走”を選手たちに浸透させ、素晴らしい成果をあげました。しかし、リーグ3連覇の後、今まで浸透し、実践できていた“全力疾走”が次第に疎かになってしまったようです。プロスポーツ選手というハイレベルな人たちが集まった集団でさえ、今までやれていたことに“慣れ”てしまい、疎かになり、隙ができてしまうのです。プロ野球は、1シーズン143試合です。

“慣れ”によってできてしまった小さな隙間が、どれだけ影響するかは十分想像できます。リーグ3連覇した強いチームも“慣れ”からできた隙間のために一気に成績を落としてしまったのです。

“慣れ”は、要領をよくすることにつながったりするので、決して悪いことばかりではないのですが、上の話にもあるように、“隙”ができてしまうことも少なくありません。例えば、委員会の仕事、学校行事の運営など初めての時は、丁寧に確認すると思いますが、なれてくると、「これぐらいで・・・」など確認を省いてしまうこともあります。また、部活動でも新チームになったときや、大きな大会で負けてしまった後にみんなで作ろうと決めた、「声の大きさ」「ダッシュの本数」「余計な話をしないで練習に集中・・・」などが1か月後と3か月後で同じかということ、残念ながらできていない方向に流れてしまうことが多いです。それだけ、“慣れ”を“隙”につなげないようにするのは難しいのです。

さあ、皆さんは、いかがですか？学習面では、テスト返却後に「次こそは、毎日〇〇しよう」とか思った人がいると思いますが、その思いのまま継続できていますか？部活動は、大会後に決めた、「毎日〇〇する」ということが同じモチベーションでやれていますか？そして、それらを人に言われるのではなく、自分自身でやり続けていますか？それができていれば、3か月後、半年後、皆さんは大きく変わっていると思います。かなり難しいことですが、頑張ってみませんか？